

地元理解を重視

町の業 町企 別石 頓化 中貝 説明会で期待の声も

【中頓別】中頓別鍾乳洞周辺で貝化石を発掘し、加工を目指す新企業(株)KUWAHARAでは、上駒会館と役場会議室で住民説明会を開催。「町民の方や行政から理解されたいことが一番大切」としている。

同社は、富良野市の富桑工業(株)が全額出資の子会社で、町から1

億3千万円の補助(3千万円は国の補助金)を受け、町内上駒の旧中頓別農業高跡の体育館や柔剣道場を工場に改修。鍾乳洞付近の地層で採掘した、ホタテやフジツボなどの貝化石を家畜飼料や肥料に加工し、販売を行う計画。この貝化石はミネラル成分が豊富で、飼料などとして活用する

と、乳質や肉質などに良い効果が出るとされる。雇用は町内を含め6人を採用予定で、町では企業の進出で、産業振興や雇用の拡大、人の定住など人口減少対策などを期待する。

役場で開いた説明会

では町民を前に、桑原守孝代表取締役が「命をかけ、長年にわたり事業をやつていきたい」という。企業側の説明では、工場内の作業で生じる騒音、粉じんによる屋外への影響はほとんどない見込み。屋外では貝化石を重機のキャタピラで踏みつぶすが、一般的な重機の音だけで、貝化石は水の含有量が多いことから飛散することもないとした。

参加者からの質問では、工場稼働の時間帯や企業誘致に関する経過などの説明を求めたが、否定的な意見はなく、「貝化石が飼料や肥料に加工され、地元でも使うことができれば」と期待の声も。同社は来年2月から工場を着工、夏頃から操業を目指す。

(梅津眞二)

広告は日刊宗谷へ